

守りたいこのまちで、
明るく
楽しく誠実に



1人目のむすび手

広島県警察 警部補
松本 祐太郎さん

こんな警察官なら

「おはよう、〇〇くん」と1人1人に声をかけると「おはよう、まつくん!」と返ってくる元気な声。児童のはしゃぐ声とランドセルに揺れる熊鈴の音色が、牧歌的な風景に響きます。

湯来町の静かな谷あいにある上水内駐在所。その歴史は古く、明治時代からこの地域の安全を見守ってきました。そこに2024年春、1人の警察官が新たに赴任しました。広島県警察・警部補の松本祐太郎さんです。

松本さんは毎日、朝霧を割るようにパトカーを走らせます。非番の日でも欠かさないようにしている、小学生の登校の見守りのためです。保護者でもある私も、毎朝橋のたもとでバス停で、子ども達を見送ることが日課でした。そのバス停で「初めまして、この度駐在所に赴任した松本です」と挨拶していただいたのは、初夏のことでした。

ところで警察官って近寄りたいたいと思いませんか?と回ると赤色灯に、腰には警棒や拳銃。ここだ

けの話ですが、私は松本さんが毎朝登校と一緒に見守ってくれるようになった当初、緊張感がぬぐえず若干困ってしまいました。けれど、青々とした水面、色とりどりの稜線、一面の銀世界。そんな折々の風景に包まれて毎朝交わされるあたたかいやりとりにより、私は初めて警察官に親近感を覚えるようになりました。明るくてお喋りで、バスに乗った子ども達の顔が見えなくなるまで手を振ってくれる。ちょうど「むすびめ」の企画が立ち上がった時期でもあ

り、こんな警察官ならお話を聞いてみたいなと、おそろおそろ取材の申し出をしたのです。「なんだ相談ってそんなことですか、何か困ったことでもあったのかと心配しましたよ」と笑って快諾してくれた松本さんにとって、湯来町で過ごす初めての冬が訪れようとしていました。

